

第7回 社会保障審議会統計分科会
生活機能分類専門委員会

平成21年12月 4日(金)
14:00 ~ 16:00
厚生労働省共用第6会議室

議 事 次 第

○ 議 事

- 1 WHO-F I C韓国会議報告
- 2 シンポジウム
生活機能分類の活用に向けて
ー共通言語としての I C Fの教育・普及を目指してー
- 3 その他

[配布資料]

- | | |
|-------|---|
| 資料1-1 | WHO-F I C韓国会議報告について |
| 資料1-2 | WHO-F I C韓国会議における I C Fの動向 |
| 資料2 | 生活機能分類の活用に向けて
ー共通言語としての I C Fの教育・普及を目指してー
シンポジウムの開催について |
| 参考資料 | I C D改訂の動向 |

[机上配布資料]

I C F-CY 国際生活機能分類 ー児童版ー
WHO-F I C韓国会議ポスター ー覧

WHO-FIC 韓国会議報告について

主催	WHO, WHO-FIC 韓国協力センター（申請中）共催
開催期間	平成 21 年 10 月 10 日（土）～16 日（金）
会場	韓国ソウル市 韓国カトリック大学ソンシンキャンパス国際コンベンションセンター
参加者	WHO, WHO 協力センター、厚生・統計関係部局、オブザーバー等約 150 名

主な議題について

(1) 各種委員会報告

● 諮問委員会（Council）

- 各グループ及び委員会の workplan の見直しを目的としたピア・レビューアを指名（WHO-FIC 全体のピア・レビューアとして、藤田伸輔 ICF 専門委員、教育委員会のピア・レビューアとして日本病院会横堀由喜子氏（大井利夫 ICD 専門委員代理））
- iCAMP の報告
- 伝統医学に関する分類の追加を検討中。
- SnomedCT は、ICD とのリンケージに関してのみ無料で使用可能とする旨 IHTSDO と合意。
- 次回執行小委員会（SEG）WHO-FIC 諮問会議（council）、RSG は来年 4 月に予定。
- 第 2 回 iCAMP も 4 月に予定。
- 次年度 WHO-FIC 年次会議
2010 年 10 月 16 日～22 日 於：カナダ（トロント）
- 諮問会議議長選挙（2010-2011）
Ms. Marjorie Greenberg と Dr. Stefanie Weber が選出。
- ポスターセッションの実施方法について意見交換

● 普及委員会 (Implementation Committee(IC))

- 現在、両議長により世界の普及状況を調査中。
- 中南米、フランス語圏、イタリア、ヨーロッパの各 ICF 普及活動の報告
- モザンビークにける簡易疾病リストの利用の報告
- アジア・パシフィックネットワーク会議について報告
- 次年度より、WHO-FIC へ初めて参加する者は、まず、普及委員会に参加し、自分の役割とニーズを発表すること。また、全ての協力センターは、代表者を1名以上普及委員会に参加させ、ICD と ICF の活動状況を報告すること。

● 分類改正改訂委員会 (Updating and Revision Committee (URC))

- 2009 年は 81 件の提案があり、会議開催前に 55 件について合意が得られ、26 件が本会議で審議された。最終結果は以下の通り。

61 提案 受理

3 持ち越し

3 不支持又は取り下げ

6 ICD-11TAG へ照会

8 MRG からの情報提供

- ICF プラットフォームの準備完了の報告
- H1N1 インフルエンザについては、J09 において3桁分類にとどめる。
- URC メンバー以外からの改正提案は関係する TAG に照会されること。
- ICD11 改訂における URC の役割について議論

● 教育委員会 (Education Committee(EC))

- ICD、ICF の各電子トレーニングツール (WHO と教育委員会が作成) の紹介
- 死因コーダー試験の追加実施の報告
- 疾病コーダー試験の開発延期

● 電子媒体委員会 (Electronic Tools Committee (ETC))

- CTK (Classification Tool Kit) の開発状況報告、ICF への活用
- ClamL (多言語変換) の開発状況、活用の報告
- IRIS (言語に依存しない自動死因コーディングシステム) の開発状況報告

- iCAT の開発報告
- 国際分類ファミリー拡張委員会 (Family Development Committee (FDC))
 - ICHI (医療行為の分類) の開発報告 (content model への導入検討、ICF とのマッチング)
 - ICPC (プライマリケアに対する国際分類) の検討
 - 伝統医学を国際分類へ統合 (検討中)
 - SHA (System of Health Account) の紹介
- 死因分類改正グループ (Mortality Reference Group (MRG))
 - 死因分類に使用する ICD コード、死亡統計に使用する原死因選択ルール等 40 議題について検討・議論
 - Mortality Forum (MRG が運営する死因コーディングに関するオンラインフォーラム) の今後の運営・管理の検討
 - 周産期死亡、特に「超未熟児」に関連した ICD の総論等の変更 (死因コーディングルールの注意書きの見直し) の検討
 - ICD-11 改訂に向けて死亡診断書の改訂検討 (周産期死亡の情報を死亡診断書に盛り込む案の提示)
- 疾病分類グループ (Morbidity Reference Group (MbRG))
 - iCAMP の参加者からの報告
 - 改訂作業における MbRG, MRG, URC の役割の検討
 - ICD-10 第 2 巻 (日本語版第 1 巻) 総論の疾病コーディング規則の体系的検討
 - main condition (主要病態) の事例検討、フローチャートの検討
 - sequelae (続発症、後遺症) のコードに関する検討
- ターミノロジーグループ (Terminology Reference Group (TRG))
 - WHO 国際分類と SNOMED-CT とのマッピング作業報告
 - 多言語ターミノロジーのためのインフォメーションモデルに関する報告
 - ICD 改訂、ICF、伝統医学分類等とオントロジーとの結合に関するアドバイスの検討

- 生活機能分類グループ(Functioning and Disability Reference Group(FDRG))
(コーディングルール、改正、ICD との調和、評価と活用、教育、環境因子、ターミノロジーに関する8つのタスクグループにより構成)
 - ガイドラインの改訂作業にサービス受給資格の表の追加を検討。
 - ICF のアップデートに向けてプラットフォームの作成。
 - ウェブベースのトレーニングツールの発表。
 - ISO9999との協議に関する報告。

(2) 本会議

- 韓国の Health Information System について (プレゼンテーション)
- 円卓会議 I (ICD-11 α 版に向けて)
 - RSG のシュート議長による説明
 - iCAMP を通じてツールの実用性が改善。
 - 用語の不整合の問題、章ごとに異なる構造を採用するか等の問題
 - 少なくとも(1) α 版の具体的な形式の提示、(2)ワークフローと課題を確認、(3)TAG 以外の広範囲な対象者と情報交換をする等は実施。
 - ウースタン WHO 担当官による説明
 - Icamp において、iCAT の使用方法、コンテンツ・モデル、ワークフローなどの学習が目的で、合計 40 人(マネージング・エディター12人、分類専門官 10 人、コンピューター専門家 10 人、評価専門家 8 人)で活動。
 - 今後の予定として、2010 年 5 月に α 版が完成し、1 年間のフィードバックを受け付ける。同時に β 版を作成して、誰でもテストできるようにする。その後 2 年間のフィールド・テストを実施して、2013 年 9 月に一般公開用の最終版を作成。
 - iCAMP 参加者からのコメント
- ポスターセッション 1 (ICD 及び ICF)
日本から日本病院会横堀由喜子氏(大井利夫 ICD 専門委員代理)が発表“Current Status of Education on Health Information Management around the World”

● ポスターセッション2（プライマリケア）

日本から藤田伸輔 ICF 専門委員が発表 “Expectation and requirement of ICD-11 for Primary Care”

● 円卓会議Ⅱ（プライマリケア）

- WONCA 代表による基調講演
- ICPC の歴史
- プライマリケアにおける伝統医学の位置づけ
- アジアパシフィックネットワーク会議における検討報告
- ICD-11 で1つのユースケースとしてプライマリケアを検討

WHO-FIC 韓国会議における ICF の動向

2009 年 10 月 10 日から 13 日の間、WHO-FIC ネットワークの年次会議中に生活機能分類グループ(FDRG)の会議が開催された。

議長 : Ros Madden、Gerold Stucki

ピア・レビューア : Albercht ZaiB、Gordon Tomes

FDRG での 1 年間の活動報告がされた。

- ・ 中間年次会議の開催: 2009 年 7 月、ブラジル、サンパウロにおいて、ラテン・アメリカ及びカリブ ICF ネットワーク会議と合同で開催。
- ・ ブリッジタスクグループ: ワシントングループとの共同作業(ICFの統計的活用及び ICFのガイドラインの分野)の報告。
- ・ FDRG は以下の8つの課題に基づいて検討グループが組織されている。詳細は以下による。

①コーディング・ルールやガイドライン: (Task leader: Diane Caulfeild)

Coding Guidline という言葉から厳格なルール作りをしていると誤解を受けているが、ICF の利用を促進するために活用の留意点をまとめた「手引き書」の作成を行っている。会議参加者からは多くの問題点が指摘され、サービス受給資格の表の追加が提案がされるなど、昨年からの議論にひき続き、まだ最終版にいたっていない。

②ICF 改正 (Task leader: Nenad Kostanjsek)

ICF 改正用のプラットフォームが完成した。今後具体的に運用するための Terms of reference を作成し、FDRG 及び URC(分類改正改訂委員会)の投票を含む ICF 改正の管理プロセスを確認した。また、使用方法を記載した ICF のユーザーガイドについても検討を行った。

③ICD との関係 (Task leader: Catherine Sykes)

ICD-11 作成ツール(i-CAT)に functional impact を記入する項目が作成されたことが報告された。その項目は用語の統一など ICF との調整が必要であり、FDRG に作業協力が依頼された。しかし、ICD の項目の中に取り入れることには相当強い反発があり、引き続き検討することになった。

- ④ICF による評価や統計的活用 (Task leader: Gerold Stucki and Judith Hollenweger)
一般的に利用可能な ICF のコアセット (parsimonious set) 版がほぼ完成した。11 月までにフィールドテストの実施要領案を検討し、12 月から 2010 年 3 月までフィールドテストを行う。その際各国の協力センターはできるだけ障害当事者にも参加してもらうように努力する。その結果をまとめて 2010 年に完成を目指す。
- ⑤ICF の教育 (Task leader: Cassia Maria Buchalla)
WEB でのトレーニングツールを発表した。今年中に素案を完成して公開し、メンバーによるフィールドテストを行いたい意向である。
また、ビギナーズガイドが出来てから 10 年近くたち、概念の周知からコード化などの活用につながるガイドが必要とのことから、ICF Overview の作成を開始することになった。検討のため小グループをたちあげる。
- ⑥倫理と人権 (Task leader: Jerome Bickenbach and Matilde Leonardi)
2009 年に引き続き 2010 年もイタリアで International Conference on Disability, Justice and Long-term Care を開催する予定。また、国連から障害者権利条約のモニタリングを要請されている。そこに ICF を活用したい。
- ⑦環境因子 (Task leader: Janice Miller)
ISO9999 との協議を行ったことの報告があった。今 ISO は見直しの時期なので、ISO9999 と ICF との食い違いを是正し、統一を図る協議を急ぐ必要がある。
- ⑧ICF におけるターミノロジーとオントロジー
(Task leader: Nenad Kostanjsek and Matti Ojala)
ICF の分類項目の定義を用いた情報モデルの作成、オントロジーの開発を引き続き検討している。

次回 FDRG : 2010 年 6 月頃を検討中

生活機能分類の活用に向けて ー共通言語としてのICFの教育・普及を目指してー シンポジウムの開催について

標記について、以下のとおりシンポジウムを開催いたしますのでお知らせします。
多数の御参加をお待ちしております。

- 1 開催日時 : 平成22年1月24日(日) 12:00開場 13:00開始
- 2 会場 : 明治大学リバティータワー1階「リバティーホール」
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 TEL 03-3296-4545
JR 中央線・総武線・東京外丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩 3 分
東京外千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩 5 分
都営地下鉄三田線・新宿線・東京外半蔵門線／神保町駅 下車徒歩 5 分
- 3 費用 : 参加無料
- 4 主催 : 厚生労働省
- 5 協賛 : 財団法人 厚生統計協会
- 6 協力 : 日本保健医療福祉連携教育学会、
ソーシャルケアサービス従事者研究協議会
社団法人 日本社会福祉士会、社団法人 日本医療社会事業協会
社団法人 日本精神保健福祉士協会、日本ソーシャルワーカー協会

7 開催主旨 :

ICF(生活機能分類)が2001年5月にWHO総会で採択されて以来、普及を促進するための研究開発が行われてきたが、2006年WHO-FICネットワークジュニス会議において、ICFを検討するFDRG(生活機能分類グループ)が設置されたことを受けてWHOの専門家会議において普及啓発、教育など活発な議論がなされており、世界中の関係者から注目を集めている。我が国においても普及の可能性、利用における課題や問題点を明らかにするため、介護、リハビリテーション、医療連携等における具体的な研究や、活用事例の報告が行われているところである。

今回のシンポジウムでの活用事例の報告発表等を通じ、ICFに関する異職種間の情報交換が活発化し、連携が促進されることが期待される。

8 プログラム :

12:00	開 場
13:00 ~ 13:10	開会挨拶
13:10 ~ 13:35	講 演 (①:木村 隆次)
13:35 ~ 14:00	講 演 (②:藤田 伸輔)
14:00 ~ 14:15	休 憩
14:15 ~ 14:40	講 演 (③:安西 信雄)
14:40 ~ 15:05	講 演 (④:大川 弥生)
15:05 ~ 15:20	休 憩
15:20 ~ 16:30	パネルディスカッション
16:30 ~ 16:50	質疑応答
16:50	閉会挨拶

【 講 演 者 】

国立精神・神経センター病院副院長	安 西 信 雄
国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部長	大 川 弥 生
日本介護支援専門員協会会長	木 村 隆 次
千葉大学医学部付属病院地域医療連携部准教授	藤 田 伸 輔

【 パネリスト 】

国立精神・神経センター病院副院長	安 西 信 雄
国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部長	大 川 弥 生
日本介護支援専門員協会会長	木 村 隆 次
千葉大学医学部付属病院地域医療連携部准教授	藤 田 伸 輔
(指定討論者)	
郡山市医療介護病院保健福祉等事業推進室長	島 野 光 正
新潟医療福祉大学医療技術学部教授	真 柄 彰

司会進行 : 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課
 疾病傷害死因分類調査室長 瀧村 佳代
座 長 : 社会保障審議会統計分科会
 生活機能分類専門委員会委員長 大橋 謙策

9 申し込み・問い合わせ

申し込み方法 : 下記 Web サイトより登録をお願い致します。

<http://www.jigyousei.com/icf/>

申し込み先 : 〒180-0013

東京都武蔵野市西久保 1-3-12 オークビル 5 階

「生活機能分類の活用に向けて—共通言語としての ICF の教育・普及を目指して—シンポジウム」事務局

(オスカー・ジャパン株式会社内)

e-mail : icf@oscar-japan.com

TEL : 0422-59-1878 Fax : 0422-59-1809

(平日 10:00-12:00 13:00-16:00)

申し込み締切 : 平成 22 年 1 月 12 日必着

問合せ先 : 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課

疾病傷害死因分類調査室

電話 : 03-5253-1111

担当 : 及川 (内線 7464) 石山 (内線 7493)

10 参加者の方へ

- 事務局の指定した場所以外の場所に立ち入ることはできません。
- アラーム付きの時計、携帯電話等音の出る機器については、音のないようにしてください。
- 写真撮影やビデオカメラ等の使用は事務局の指示に従ってください。
- 会場での、飲食及び喫煙はご遠慮下さい。
- 静粛を旨とし、シンポジウムの妨害となるような行為は謹んでください。
- 危険なものを持っている方、酒気を帯びている方、その他秩序維持のため必要があると認められている方の参加はお断りいたします。

11 アクセスマップ





国際生活機能分類

ICF

International Classification of
Functioning, Disability and Health

生活機能分類の 活用に向けて

～共通言語としてのICFの教育・普及を目指して～

平成22年1月24日（日） 13:00～17:00

明治大学リバティータワー1階・リバティータワーホール（東京・駿河台）

主催 厚生労働省 協賛 財団法人 厚生統計協会

協力 日本保健医療福祉連携教育学会 ソーシャルケアサービス従事者研究協議会

社団法人 日本社会福祉士会 社団法人 日本医療社会事業協会 社団法人 日本精神保健福祉士協会 日本ソーシャルワーカー協会

シンポジウム開催概要

● 講演（テーマは仮）

『新予防給付におけるアセスメント・ケアプラン作成の考え方』 木村 隆次 日本介護支援専門員協会会長

『退院支援における ICF 評価の試み』 藤田 伸輔 千葉大学医学部付属病院地域医療連携部准教授

『精神障害領域における ICF の活用に向けて』 安西 信雄 国立精神・神経センター病院副院長

『ICF の活用「生きることの全体像」についての「共通言語」として』 大川 弥生 国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部長

● パネルディスカッション

座長 大橋 謙策 社会保障審議会統計分科会 生活機能分類専門委員会委員長

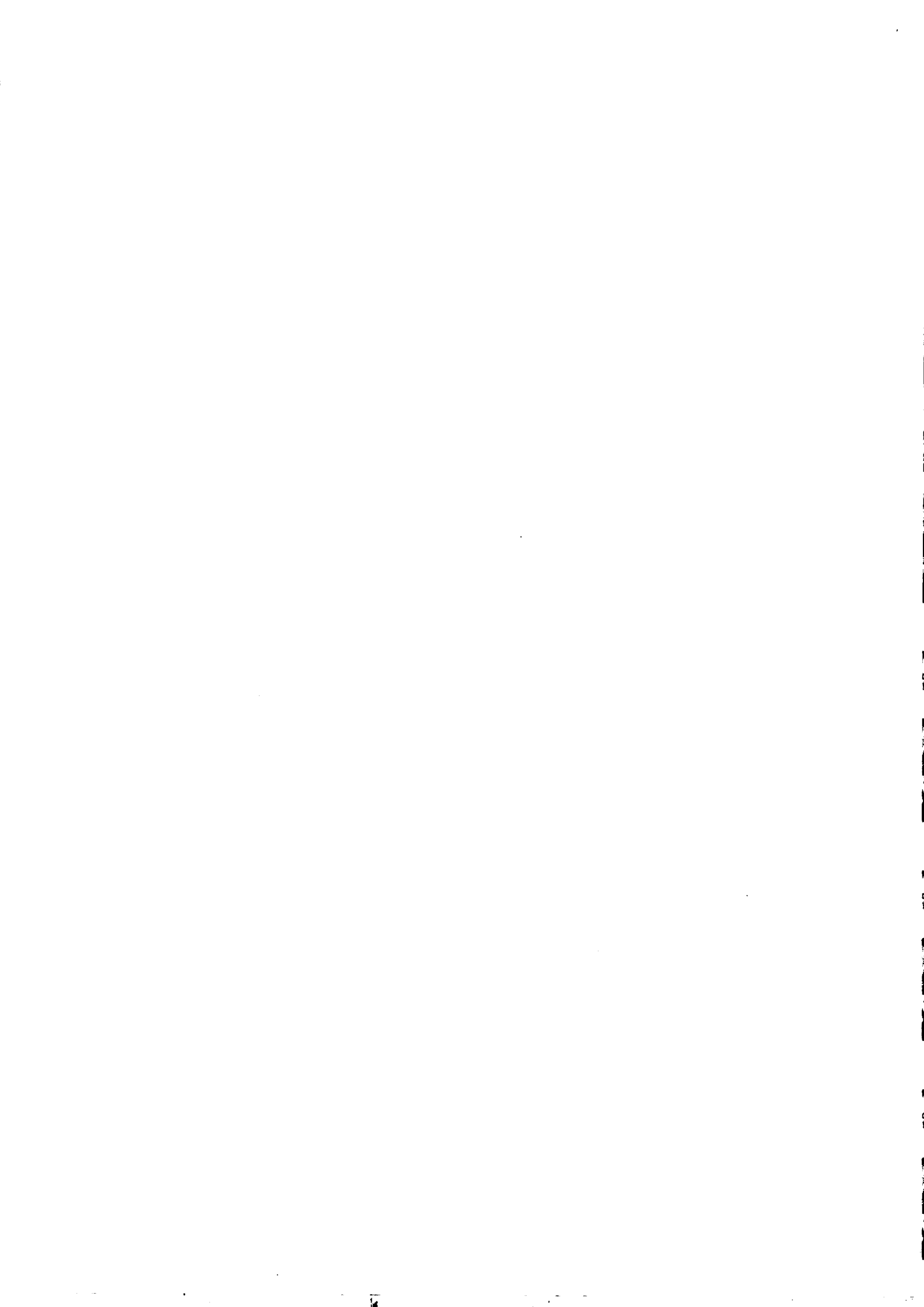
パネリスト 講演者4名

（指定討論者） 真柄 彰 新潟医療福祉大学医療技術学部教授

島野 光正 郡山市医療介護病院保健福祉等事業推進室長

お申し込み・お問い合わせ <http://www.jigyoku.com/icf/>

Web サイトの申し込みフォームから、または裏面の参加申込書にて FAX でお申し込みください。



FAX:0422-59-1809

シンポジウム事務局

参加申込書

下記にご記入のうえ、FAX か郵送にてお申し込みください。

先着順に折り返し参加証をお送りします。

なお、参加申し込みは、定員になり次第締め切らせていただきます。

厚生労働省 シンポジウム

生活機能分類の活用に向けて

～共通言語としてのICFの教育・普及を目指して～

平成22年 **1月24日** (日) 13:00～17:00

明治大学リバティータワー1階 **リバティールーム**

記入事項

フリガナ:

氏名:

所属(勤務先):

所属部署:

TEL:

FAX:

メールアドレス:

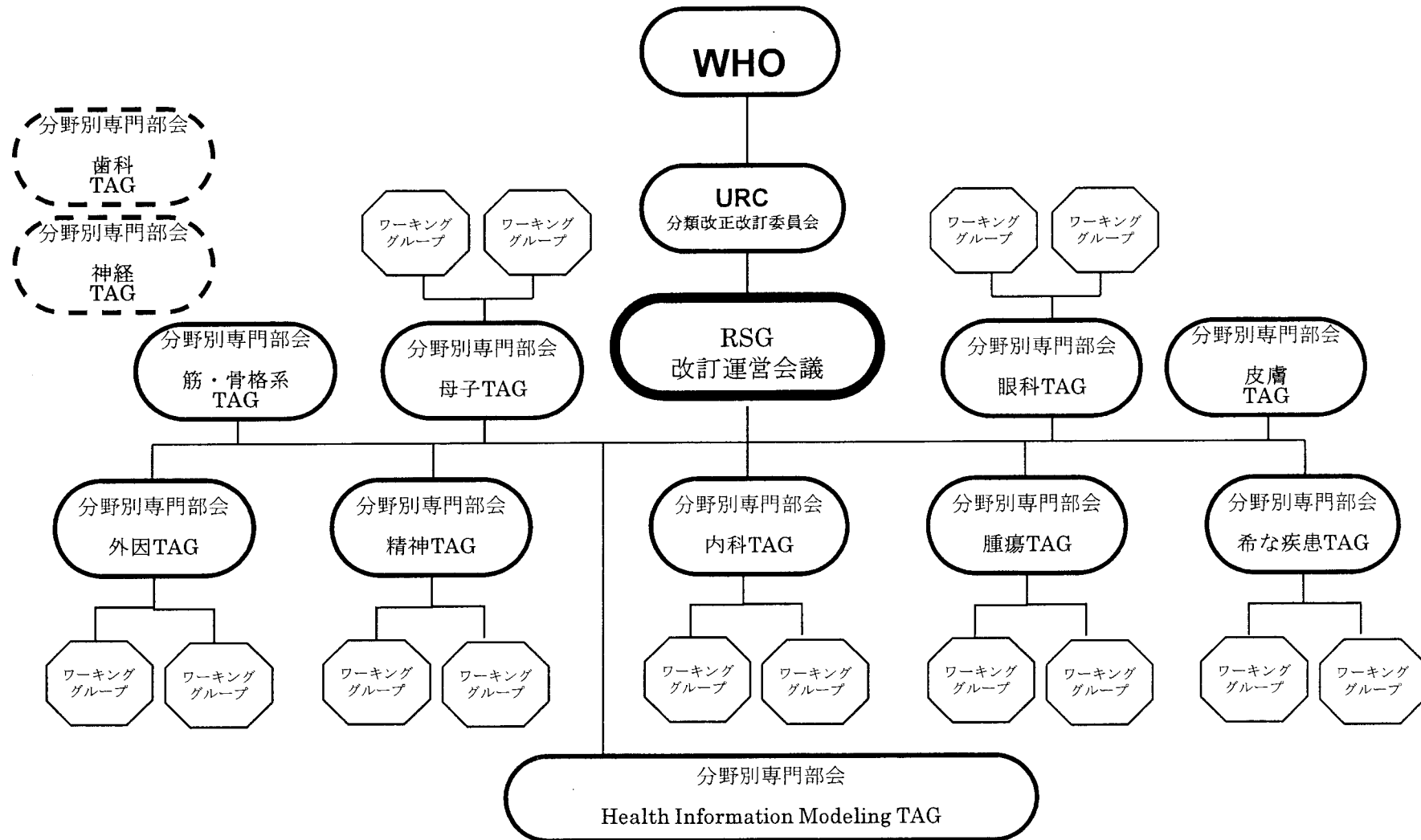
～お申し込み・お問い合わせは事務局まで～

シンポジウム事務局 (オスカー・ジャパン(株)内) 平日10:00～12:00、13:00～16:00

〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-3-12 オークビル5階

●Tel : 0422-59-1878 ●Fax : 0422-59-1809 ●e-mail : icf@oscar-japan.com

ICDの改訂のための組織



M. Musen (Stanford University)

ICD-10 → ICD-11へ

<WHO側の当初予定>



実際には2007年4月に
改訂作業開始

- 2006年: 3つの視点(科学、臨床、公衆衛生)から作業計画を作成
- 2010年: ICD-11草案(α版(※))の公開 ~ 2011年 ICD-11α版を基に協議

※ ICD-11に向けては、二つの草案が作成される予定

- ・ α版: WHO-FICネットワークメンバーや専門家向けの草案。
- ・ β版: データに基づく検証を行うためのフィールド・テスト用の草案。

科学的知見の収集に留まらず、試験的に改訂版を運用し、実際に活用可能かどうか等についての検証もこの版を基に行う予定。

- 2011年: ICD-11β版公開、フィールド・テストの開始 ~ 2012年 データ収集
- 2013年: 一般レビュー用の最終版の公開 ~ 2014年 調査の実施、レビューの公開
- 2014年: 世界保健総会への提出及び承認
- 2015年(以降): ICD-11の勧告、各国が状況に応じて順次導入